

2018年度 NTA 具体的取り組みについて

① 育成選手リストの作成

- ・各選手の評価を共有できるようデータベース化
- ・NTS と連携し活動をする
 - NTS (CTR) へ推薦選手を上げ情報共有を行う(NTS のブロック TR 参加の重要性を認識してもらう)
 - 各全国大会にて情報共有を行い育成選手の発掘を行う
- ・NTA 委員にて名簿管理し指導普及部・強化部にて共有する (NTA 生の選考～アンダーカテゴリーへ)

② 育成選手について

- ・NTA 生 (アカデミー選手) の対象人数
 - 予算と練習効率を考慮し決定する。
 - 収容可能人数 NTA 生【男女各 30 人程度】欧州遠征【男女各 16 人程度】

③ トライアウトの実施

- ・NTS・各大会よりピックアップされなかった選手を対象にする (自推・他推)
- ・広くアカデミー生 (育成選手) への道を開く
 - (公募: 13 歳～16 歳対象) →大きい選手等に判断力を身につける最終チャンス
 - (12 歳以下は大きさがはっきりしない。16 歳以降の選手は遅い)
 - (男子は16 歳以降も可能性のある選手が出てくる可能性あり)

※実施方法検討中

④ 特化プログラム (GK・大型・左腕・スーパーキッズ等) の実施

- ・NTS や各大会にて対象にならなかった選手でも、特徴を要した選手を育成するシステム
- ・長期的な TR が必要であり次年度への引継ぎ。
- ・特別スタッフを召集する。

⑤ 日韓交流 (U16) との連携

- ・NTA 生の育成状況共有

⑥ 欧州遠征

- ・多くの経験を育成期に早期に行う。

⑦ 専属コーチの獲得

- ・NTA での取り組みを継続的に TR してもらえらる環境を整備する。

⑧ 各カテゴリーとの連携

- ・ NTA 生の情報を強化部と指導普及部が連携し U16～ユース～ジュニア～ナショナルの一貫指導を行う。
(名簿をユーススタッフと共有し活動を組織的に行う：NTA 委員長→ユース HC 等)

⑨ HP への早期掲載

- ・ 育成選手として年度ごとに日本協会 HP からの情報公開を行う
- ・ トレーニング動画等の公開も行い、国内中の基礎基本の充実を図る
- ・ 決裁の流れを円滑に行い、迅速な対応を行う

⑩ 情報公開

- ・ ボールトレーニング ・ フィジカルトレーニング ・ チームムビルディング ・ 人材教育
これらの取り組みを、動画に組み込みの目的を添えて、SNS(Instagram、Facebook、Twitter 等)で発信。
→情報公開→指導者、選手のハンドボール IQ 向上。→取り組みの目的、意義の明確化
→ある程度の動画、解説等は無料で。

- ・ NTA 専用のアカウントを作成。

参加選手、参加指導者のプロフィール公開。・ 取り組みを日本だけでなく世界に向けて発信。
→日本ハンドボールの世界的な位置づけの向上 (英語での発信)

⑫ 人間力・競技力向上プログラムについて

- ・ チーム戦術を理解できる ・ 個人戦術に長けている ・ 良き社会人になるべく人間力が向上している
→スポーツの価値を高めるべく、基礎基本の徹底習得及び知的スキルの習得、人間力向上カリキュラムを
形成し教育する。

⑬ その他

- ・ ルール、ハード、ボール、用具等ジュニア期の育成に関わる様々なものを取り込み将来を見越した活動
の場とする。

以上